



福王寺だより

お彼岸も過ぎ、段々と日が短くなり、冬に向かっていく様を感じる季節となってきました。大雪山の初冠雪も早かったようですね、皆様お体ご自愛ください。合掌

苦しみの宗教？

「**仏教は生きることは苦しみていいのですか？**」という質問をどこかでみかけた事があります。

四苦八苦、つて皆様は聞いたことがありますか？ これつて実は仏教用語なんです。

四苦八苦を分けると「生れること、老いる事、病になること、死んでいくこと」この四つを四苦といひ、

その四つに「愛しい人と別れなければならぬ事、嫌な人と会わなければならぬこと、求めても得られない事、心身から生まれる苦しみ」を加えて八苦となります。

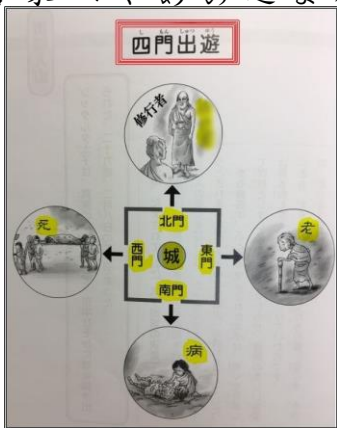
こういふふうになんかネガティブだと思いませんか？老いたり、病になったり、

亡くなつていつたりすることは、苦しみかもしれないけど、**生きることが苦しみてなんなんでしょうかね？**

という事をその質問者は言いたかつたんだと思うのです。私もそう思いました、しかし、この「苦しみ」こそがお釈迦様が仏教を説かれた出発点になるのです。

お釈迦様が出家するにあたり、有名なエピソードがあります、お釈迦様は王子でした、ある時家来を連れて東の門から城をでると、老人がいた。家来にあれはなんだと聞くと「老人にございます」と答える、南の門には病の方が、西の門ではお葬式をしている、家来に聞くと「病のものです、死人でございますと答える」、そんな事はお釈迦様もわかつていたはずですよ。

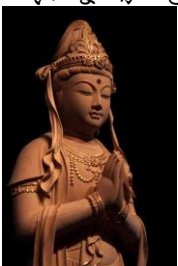
お釈迦様はどうして私達はあの様になつていかなばならないのかを訪ねたのです。生まれたからにはたくさんの苦しみがつきまといつてくる、どうしてなのだろうか。最後に北の門からでると、修行者がおられました。お釈迦様はそのいのちを見つめ生きていく姿に感動し、自らも出家する事を誓うのです。



そしてお釈迦様はお悟りを開かれて、あらゆる苦しみを超えた存在となりました、そしてこの世の理を説き、仏となられ、生きとし生けるものの苦しみを無くされたいと行動されるのです。

その教の一端を説くと、苦しみて「思い通りにならない事」という意味でとらえます。人である限り、自分が一番大事なのは当たり前の事です。でもそんな自分は必ず変化していく、老いることも、病となることも、亡くなることも、全部思い通りになりません。

だからこそ、それらを受けとめていける心を作つていく事が修行です。老いても老いたなりに、自分を受け止め人を助ける、有り難いと思う。病になつて寝たきりになつても「まだ子供のため祈ることが出来る」と思う、やがてお迎えが来たときには「嫌だ死にたくない」と思うのが私達であります、が、「ありがたう」といつて亡くなる人生を育んでいく事、また苦しみを知らずからこそ、人に優しくしたり、喜びあつたりできるのです。人として生まれる限り「苦しみ」はつきものです。だからこそ、思い通りにならない事を受け止めて、どうやって楽しく生きていくことができるのか、自分のせつかくのいのちを生き、て行くことができるのか決してネガティブでなくポジティブに生きていくための教えなのです。



行事のご案内

十一月二日 午前九時

第三回下座行

第三回目の下座行です。先祖様に供養すると同時に心を磨きましょう。

落ち葉の片づけ等行います。是非一度も来られたことがない方も、お気軽にご参加下さい。

十一月十七日 午前十時

報讃会

今年最後の大法会です。網走の管内のご寺院様、布教師様をお招きし一年の感謝を込めて祈りを捧げます。

理趣三昧という聞くだけでも罪を減し、善を増す、密教の大法会を執行します。



寺院からのお知らせ

秋彼岸

今年も無事に秋のお彼岸の法会を執行することができました。皆様のお参り、お手伝い本当にありがとうございます。

北見の別院では、二十日の彼岸入りにお参りしております。



境内整備

秋彼岸を迎えるにあたり、境内整備が一段落しました。泉利之さんさんのご寄進による石で、境内の階段を松本功さんが作ってくださいましたのですが、この度完成致しました！！

本当に気持ちの良い道となりました。

また、その石を土留として駐車場から山道まで並べて頂き、また境内の雰囲気が変わり

より良くなりました。近年では認定こども園の園児たちがお散歩等に来てくださり、賑やかで良いなと思います。

まだまだ津別の人でも裏庭は知らないという人も多くいるようで、是非檀信徒問わずお参り頂ける、そんな場所となることができれば幸いです。

合掌

